

【資料 1 - 1】

青森県立高等学校教育改革推進計画に関する
地区意見交換会（東青）における主な意見
<整理案>

平成 29 年 1 月 19 日

目次

1	東青地区の中学校卒業者数の推移と全日制課程の学級数の見込み.....	1
2	全日制課程の学校規模・配置に関する意見.....	2
(1)	重点校、拠点校、地域校について.....	2
(2)	委員の意見に基づく学校配置シミュレーション.....	3
ア	平成29年度に生徒を募集する全ての高校を配置する場合.....	3
イ	青森東高校平内校舎の募集を停止する場合.....	5
(3)	その他の意見.....	7
3	定時制課程及び通信制課程の配置に関する意見.....	8
	【参考1】委員名簿（東青地区）.....	9
	【参考2】オブザーバー名簿（東青地区）.....	10
	【参考3】地区意見交換会の開催状況（東青地区）.....	11

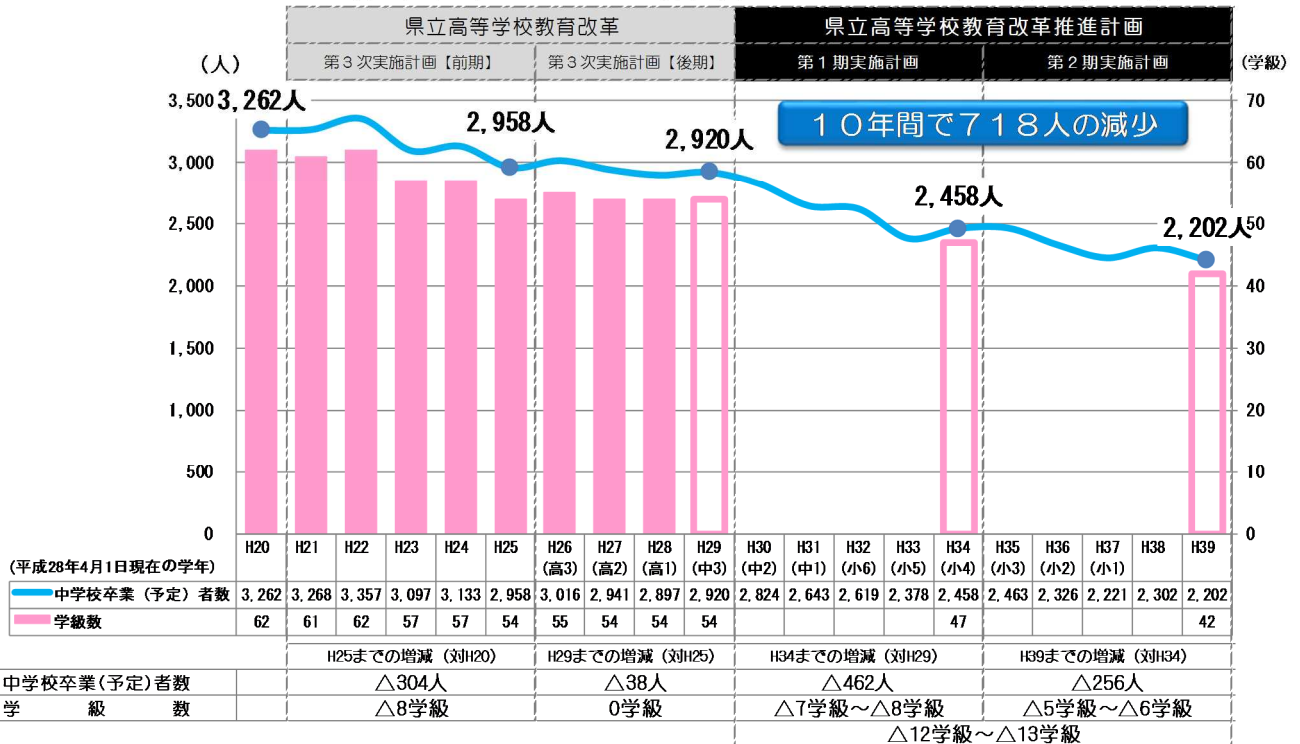
1 東青地区の中学校卒業生数の推移と全日制課程の学級数の見込み

※中学校卒業(予定)者数は、各年3月。

平成29年度以降は、平成28年5月1日現在の児童生徒数をもとに県教育庁高等学校教育改革推進室において推計。

※平成29年度の学級数は、県立高等学校教育改革第3次実施計画【後期】によるもの。

平成30年度以降の学級数は、これまでの高等学校進学率、他県・他地区との流出入等の状況を勘案し、算出。



			第1期実施計画	第2期実施計画
試案における候補校			H29	H39
重点校	青森高校	7学級	△7学級 (対H29)	△12学級 (対H29)
拠点校	青森工業高校	7学級		
	青森商業高校	6学級		
地域校※	青森北高校今別校舎	1学級		
重点校等の合計		21学級		
連携校	青森東高校	7学級		
	青森西高校	6学級		
	青森北高校	6学級		
	青森南高校	6学級		
	青森中央高校	5学級		
	浪岡高校	2学級		
	青森東高校平内校舎	1学級		
連携校の合計		33学級		
東青地区全体の合計			47学級	42学級

※基本方針に定める地域校の方向性に基づき、募集人員に対する入学者数の割合が2年間継続して2分の1未満となった場合には、当該高校の所在する市町村等と募集停止等に向けて協議します。

2 全日制課程の学校規模・配置に関する意見

(1) 重点校、拠点校、地域校について

① 全般

- 重点校、拠点校、地域校の配置の考え方は良いと思う。(第1回)
- 高校でどのようなことに取り組むのかといった目標や夢を持つためにも重点校、拠点校、地域校という言葉をもっと浸透させてほしい。(第1回)
- 重点校、拠点校、地域校を配置することは良いと思うが、重点校等の名称は再考してほしい。子どもたちのモチベーションの低下につながるおそれがあるため、表現上の格差はなくした方が良い。(第1回)
- 他地区では重点校や拠点校を増やしてはどうかという意見があったようだが、連携校の規模の縮小につながるため、重点校、拠点校の配置については、候補校のとおりで良い。(第2回)

② 重点校

- 重点校の取組がイメージしづらいため、重点校の意味が理解されていないのではないか。(第1回)
- 重点校は教員配置等の面で手厚くするという印象を強く受けるため、重点校以外の学校の保護者等がどのような受け止め方をするのか気に掛かる。(第1回)

③ 拠点校

- 職業教育を主とする専門学科の拠点校と普通科等の連携は考えられないのか。(第1回)
- 他県の統合例を見ると工業科や商業科と普通科が統合している。拠点校と普通科の高校の融合も必要であると感じている。(第1回)
- 拠点校の候補校である青森工業高校、青森商業高校は青森市の東部に位置しており、地域が偏っている。青森市の西部にも拠点校や複数学科を有する高校があれば良いと思う。(第2回)

④ 地域校

- 地域住民からは募集停止基準に該当した際には機械的、事務的に募集停止とするのかといった不安の声が聞こえている。(第1回)
- 青森北高校今別校舎について、地域校として存続することは良いことだと思うが、募集停止とする際には、地域と話し合いながら進めてほしい。(第1回)
- 青森北高校今別校舎が募集停止になることにより通学が大変になると思うが、通学する手段はあると思う。(第1回)
- 地域校について、地域から高校がなくなることによる影響は地域によって異なると思うが、将来を見越して、募集停止基準による対応が必要であると思う。(第2回)

(2) 委員の意見に基づく学校配置シミュレーション

ア 平成29年度に生徒を募集する全ての高校を配置する場合

	第3次実施計画	青森県立高等学校教育改革推進計画			
		H29	第1期実施計画		第2期実施計画
				H34	
重点校	青森 7学級		青森 〇学級		青森 〇学級
拠点校	青森工業 7学級		青森工業 〇学級		青森工業 〇学級
	青森商業 6学級		青森商業 〇学級		青森商業 〇学級
連携校	青森西 6学級		青森西 〇学級		青森西 〇学級
	青森東 7学級	△7学級 →	青森東 〇学級	△5学級 →	青森東 〇学級
	青森北 6学級		青森北 〇学級		青森北 〇学級
	青森南 6学級		青森南 〇学級		青森南 〇学級
	青森中央 5学級		青森中央 〇学級		青森中央 〇学級
	浪岡 2学級		浪岡 〇学級		浪岡 〇学級
	平内校舎 1学級		平内校舎 1学級		平内校舎 1学級
小計	53学級	△7学級 →	46学級	△5学級 →	41学級
地域校	今別校舎 1学級		今別校舎 1学級		今別校舎 1学級
合計	54学級	△7学級 →	47学級	△5学級 →	42学級

① シミュレーションの基となった意見

- 募集学級数を考慮する必要があるが、小規模であっても可能な限り学校を存続するという考え方もあると思う。(第1回)

② 期待される効果等

- 全ての高校を残すことには通学しやすいというメリットがある。(第2回)

③ 更に検討を要する課題等

- 平内町の中学生は青森東高校平内校舎ではなく青森市内の高校への進学を希望している。平内校舎には青森市の子どもうち市内の高校に進学できなかった子どもが入学している。これからは地元の子どもの地元の学校を良くするという認識を持ち、保護者や地域が変わっていかねばいけない。(第1回)
- 青森東高校平内校舎が存続することで他校の学級減をしなければならないという点を考慮する必要がある。(第1回)
- 全体の学級数が減っていく中でも学校規模を維持して子どもたちに部活動等を含め様々な体験をさせ、子どもたちが広い視野を持てるような教育環境の整備をお願いしたい。(第1回)
- 全ての学校を残すことも一つの方法であると思うが、平成39年度を見据えると高校の統合も視野に入れて考えていく必要があると思う。(第2回)
- 高校において、生徒の学力を伸ばし進路実現できるよう、例えば進学校については8学級規模とし、ニーズがない学校の統合を進めないと、青森県のレベルが他県に比べ劣ってしまうのではないか。青森県全体のレベルアップも考えていかねばならない。(第2回)
- 学校規模の縮小による教員数の減少等を踏まえると、学校の数を現状のまま残すことは難しいと思う。通学環境に配慮する必要があると思うが、高校を統合することはやむを得ないと思う。(第2回)
- 子どもたちのニーズに対応できない学校がいくつもできるより、教員数が確保され、様々な科目を開設できる学校を配置していくべきである。(第2回)
- 平成39年度までを見据えた学校配置については、施設整備の面からも検討する必要がある。また、子どもたちが第一希望として入学を希望する学校がどこなのかということも考えていかねばならない。(第2回)
- 学校規模が小さいと、教科によっては当該教科の免許を所持した担当者がおらず、免許教科外の指導が必要となることもある。それでは生徒が可哀想であり、小規模校については、小規模であることのデメリットをきちんと保護者に説明した上で統合する必要があると考えている。(第2回)
- 1学級規模の学校は2学級規模の学校に比べて教諭の定数が約半数になるため、教員が専門分野以外の指導をすることもあると思うが、それで高校教育が成り立つのか疑問である。(第2回意見等記入票)
- 職業教育を主とする専門学科と普通科の統合による連携を考えてほしい。(第1回)
- 工業高校においてもセンター試験に対応するため、他県の例にあるような工業科と普通科を併設する学校の設置が必要であると思う。(第2回)
- 全ての学校を残す場合には校舎の改築等の予算も必要になると思うので、校舎が古い学校を校舎が新しい学校に統合することも検討してはどうか。(第2回)

イ 青森東高校平内校舎の募集を停止する場合

	第3次実施計画	青森県立高等学校教育改革推進計画			
		第1期実施計画		第2期実施計画	
		H29	H34	H39	H39
重点校 拠点校 連携校	青森 7学級		青森 ○学級		青森 ○学級
	青森工業 7学級		青森工業 ○学級		青森工業 ○学級
	青森商業 6学級		青森商業 ○学級		青森商業 ○学級
	青森西 6学級		青森西 ○学級		青森西 ○学級
	青森東 7学級	△6学級 →	青森東 ○学級	△5学級 →	青森東 ○学級
	青森北 6学級		青森北 ○学級		青森北 ○学級
	青森南 6学級		青森南 ○学級		青森南 ○学級
	青森中央 5学級		青森中央 ○学級		青森中央 ○学級
	浪岡 2学級		浪岡 ○学級		浪岡 ○学級
	平内校舎 1学級	△1学級 →	平内校舎 募集停止		
小計	53学級	△7学級 →	46学級	△5学級 →	41学級
地域校	今別校舎 1学級		今別校舎 1学級		今別校舎 1学級
合計	54学級	△7学級 →	47学級	△5学級 →	42学級

① シミュレーションの基となった意見

- 平成34年度までに1学級規模である平内校舎を募集停止し、その後、平成39年度を見据え、拠点校における複数学科の併設を含め、高校の統合について検討が必要であると思う。(第2回)

② 期待される効果等

-

③ 更に検討を要する課題等

- 小規模校を募集停止する際は、小規模であることのデメリットを地域や保護者に十分説明し、子どもたちを中心とした学校規模・配置であることへの理解を得るべきである。(第1回意見等記入票)
- 青森東高校平内校舎における入学者数は募集人員の2分の1を超えているため、平内校舎が存続すると考える人がいると思う。
基本方針の記載では、地域校以外の高校についても地域校の募集停止基準に該当しなければ募集停止等とならないように誤解される懸念がある。(第1回)
- 何らかの基準を設定した上で、基準に該当した学校について統合等の検討を行うてはどうか。(第1回)
- 地域校を除き、校舎制導入校は計画的に募集停止とし、現在2学級規模の高校も今後一定の基準に満たない場合は募集停止すると明確に示すべきである。(第1回意見等記入票)
- 地域の学校がなくなることはその地域に非常に大きな影響を及ぼすため、地域の理解を得る努力をしてほしい。(第1回)

(3) その他の意見

(具体的な学校規模・配置)

- 浪岡地域における特色を踏まえ、浪岡高校は2学級規模であるが、現状維持してほしいと考える。(第2回)

(学科等について)

- 総合学科である青森中央高校や単位制を採用している青森東高校では様々な科目を履修できるが、その検証をしながら同様の高校が増えてくると良い。(第1回)

(生徒の通学について)

- 極めて少数だが、フェンシング部で活動するために新幹線で青森市内から今別校舎に通学している生徒もいる。一方で、今別町内から新幹線で青森市内の高校に通学している生徒が二人いるが、通学可能な高校は限られる。新青森駅からの冬季の通学が可能か懸念される。(第1回)
- 高校の数が減ったとしても、充実した教育環境が整備され、保護者の負担が増えなければ問題ないと考えており、県による通学支援等があれば良いと思う。(第1回)
- 地域校が募集停止となった際には、通学手段の確保や寮の整備等により高校教育を受ける機会を確保してほしい。(第1回)

(その他)

- 普通科等の連携校については、青森北高校のスポーツ科学科のように教育内容を明確にした特色化を図ってほしい。(第1回)
- 高校に入学してから夢を探すような子どもたちにも夢を持たせることが、連携校のあるべき姿であると思う。(第1回)
- 近隣の普通高校と職業高校などが学校の枠を超えて就職に必要な科目や進学に必要な科目を選択履修できるような連携を検討してはどうか。(第1回意見等記入票)
- 工業科や小規模校に導入している35人学級を拡充し、きめ細かな指導をしてはどうか。(第1回)
- 県の予算が子ども一人一人にどのように使われているのか検証してはどうか。現在、生徒一人当たりどの程度の費用が必要で、少子化が進んだ10年後にはどの程度になるか試算し、どうすれば費用対効果が上がるのか、教育の充実につなげるにはどうすべきかといった視点が必要ではないか。(第1回)
- 高校の統廃合に反対するのはPTAのOBや卒業生等であるが、現役の生徒や保護者に理解してもらえるよう取り組んでいくべきである。(第1回)
- 中学生や保護者のニーズについては、市部の学校を志向する傾向が強く、私立高校を志望する傾向も強くなってきている。地元の高校に入学する生徒が少なくなっており、県立高校も魅力ある学校づくりが求められている。(第1回)
- 高校の統合を検討する必要があることを保護者や中学校の教員は理解しているが、重点校等の取組内容等については理解できていないため、具体的な情報提供をお願いしたい。(第1回)

- 重点校、拠点校以外の連携校の特色化を図るため、学校に使命を持たせるような取組を検討してほしい。(第2回)
- 東青地区の子どもが首都圏の子どもと張り合っていく力をつけるためにも、標準法上の教員定数にとらわれず、本県の子どもをどのように育てていきたいかという視点が必要ではないか。(第2回)
- 平成39年度を見据えた学校配置の検討に当たっては、東青地区における中学校卒業生数や高校入学人数を考慮した場合、青森市内の学校を中心に学級減等を考えていく必要があると思う。(第2回)

3 定時制課程及び通信制課程の配置に関する意見

- 学校に馴染めない子どもの受け皿となっているとともに、大学へ進学している実例もあるので、現状を維持してほしい。(第1回)
- 北斗高校や青森工業高校定時制課程は様々な課題を抱えている生徒が社会進出にチャレンジするための貴重な受け皿となっており、これからもその重要性は増していくため、両校の支援を希望する。(第2回意見等記入票)
- 定時制課程においては、働きながら通学している子どもは非常に少なく、どちらかというとなんらかの事情から全日制課程に通うことができない子どもの受け皿になっていると思う。定時制課程は、各地区1校程度の配置で良い。(第1回)
- 定時制課程や通信制課程は、東青地区には1校あれば良いと思う。(第1回)
- 各地区1校の配置とし、学習センターやカルチャーセンター等との連携を検討してはどうかと思う。(第1回)
- 通信制課程については、ニーズがある。(第1回)

【参考1】委員名簿（東青地区）

（敬称略）

区分	所属等	委員名	備考
市町村教育委員会	青森市教育委員会 教育長	成 田 一 二 三	
	平内町教育委員会 教育長	相 坂 一 則	
	今別町教育委員会 教育長	澤 田 涉	
	蓬田村教育委員会 教育長	吉 崎 博	
	外ヶ浜町教育委員会 教育長	村 田 長 年	
P T A	青森市P T A連合会 会長 （青森市立甲田小学校P T A 会長）	外 崎 浩 司	
	東津軽郡連合P T A 会長 （蓬田村立蓬田中学校P T A 会長）	森 順 治	
	青森県高等学校P T A連合会 東青地区協議会 会長 （県立青森北高等学校P T A 会長）	越 田 宏 治	
産 業 界	青森商工会議所青年部 副会長	賀 田 州 一	
小 中 学 校 長 会	青森市小学校長会 会長 （青森市立浜田小学校 校長）	山 谷 尚 史	
	東津軽郡小学校長会 会長 （平内町立小湊小学校 校長）	沼 田 礼 一	
	青森市中学校長会 （青森市立南中学校 校長）	伴 孝 文	
	東津軽郡中学校長会 会長 （平内町立小湊中学校 校長）	田 村 義 文	
	元県立青森高等学校 校長	三 上 順 一	進行役

【参考2】オブザーバー名簿（東青地区）

（敬称略）

所 属 等	オブザーバー名	備 考
県立青森高等学校 校長	成 田 昌 造	
県立青森西高等学校 校長	山 口 龍 城	
県立青森東高等学校 校長	小野崎 龍 一	
県立青森北高等学校 校長	佐々木 裕	
県立青森南高等学校 校長	大 山 誠	
県立青森中央高等学校 校長	花 田 慎	
県立浪岡高等学校 校長	太 田 正 文	
県立青森工業高等学校 校長	豊 島 隆 幸	
県立青森商業高等学校 校長	落 合 喜 一	
県立北斗高等学校 校長	川 口 敏 彦	
県立盲学校 校長	上 澤 司	
県立青森聾学校 校長	敦 川 優美子	
県立青森第一養護学校 校長	佐 藤 全 克	
県立青森第二養護学校 校長	森 山 隆	
県立青森若葉養護学校 校長	小 野 正 雄	
県立青森第一高等養護学校 校長	畑 井 英 成	
県立青森第二高等養護学校 校長	川 村 泰 弘	
県立浪岡養護学校 校長	奈 良 親 芳	

【参考3】地区意見交換会の開催状況（東青地区）

回	年月日	内容
1	平成28年 9月15日	○学校規模・配置に関する意見発表
2	平成28年11月25日	○第1回地区意見交換会での意見等を踏まえた学校配置シミュレーションに関する意見交換
3	平成29年 1月19日	○地区意見交換会委員の意見に基づく学校配置シミュレーションにおいて想定される効果・課題等に関する意見交換